

資料 「十二歳」のコトワザ作り

B 石神井東小学校 6年1組 C 同6年2組 ア、意味 イ、作った理由

B-1 十二さい やぶから棒に口を出す

ア、十二才は思ったことを全て率直に言ってしまうということ。

イ、私も思っていることを全て言ってしまうので今後直したいという理由です。(O女)

B-2 十二の手本、十三の見習い

ア、小学校では六年生は最上級生でお手本となっているが、中学校では新しいことばかりで知らないことが多く、まだまだ見習いということ。

イ、中学では部活動や美術など、小学校には無かったことがたくさんあるので、努力しなければならなかったから。(T女)

B-3 十二までは親手の内 十三過ぎれば一人立ち

ア、十二才までは、親の近くで、十二才を過ぎれば色々な事を一人でやったりするのでこのことわざにした。

イ、自分も、まだ十二才だけれど、十二才を過ぎることによって、なんでも一人でやるからこのことわざをつくった。(E男)

B-4 十二にスマホ

ア、「猫に小判」と同じ意味で、十二才がスマホを持っていても使い道が少なくて持っている意味がない。まだ持たなくていい。

イ、自分の周りにはスマホを持っている人が多くいるが、小学生でスマホなんて使わないで本をよんだりした方がいいと思ったから。(S女)

B-5 十二過ぎれば友ぼなれ

ア、十三才になって中学生になると、違う中学校に行く人がいて、はなれてしまう人がいるから。

イ、もうすぐ中学生になって仲が良い友達が違う中学校に行ってしまうから、そのことをことわざにした。(T女)

B-6 十二過ぎれば新たな出会い

ア、中学校に行くとき違う学校から来る人がいるから、そこで新しい友達ができたりするから。

イ、中学校に行くと新しい友達ができたりするから、そのことをことわざにした。(同上)

B-7 十二さいで自律と自立

ア、この年で、二つの「じりつ」をおぼえるということ

イ、自分には、そこがたりないから、この二つの力をつけて卒業したいという思い。(Y男)

B-8 十二は子供、十三は大人

ア、十二才まではまだおさなく、子供だけど、十三才になると(中学生)になるので大人になっていくという意味。

イ、学校では、低学年・中学年・高学年と分けられているが、六年生もまだ子供っぽい（おさない）。でも、十三才（中学生）になると「小学校」から「中学校」に一つ上にかわり少し大人になっていくと思うから。（S 男）

B-9 十二になって模様替え

ア、十二才になって、中学生になるので気持ちを変えて行く。

イ、気持ちをあらためて行きたいから。（A 女）

B-10 十二過ぎてのハーゲンダッツ

ア、十二さいぐらいから、お金の使い方が自由になってきて、高いハーゲンダッツなども買えるようになってくるということ。

イ、ハーゲンダッツを食べたい。（S 男）

B-11 十二から学問

ア、十二才からは、たくさん勉強することになるということ。

イ、中学や高校は、たくさん勉強することになると聞いたから。（K 男）

B-12 十二過ぎれば我

ア、十二歳までは、他人に頼ってしまうことが多いが、その後は自分のことは自分で行うようになる。

イ、自分のことは、自分で管理できるようになりたいと思うから。（H 女）

B-13 十二は大人の通過点

ア、十二さいは大人になるために必ず通るもので大人への準備を少しずつ始めるという意味。

イ、私達の親たちも大人になるために、通っていったのでそのことを「通過点」とたとえ大人になるため成長はつづいていると伝えるため。（I 男）

B-14 十二はさる山のボス

ア、動物園にあるさる山にはボスがいてそのボスはさる山全体をまとめるように六年生も最高学年として学校をまとめるという意味。

イ、六年生になって今まで見てきた六年生みたいに自分も学校をまとめられるようにりたいと思ったことがあるから。（Y 女）

B-15 十二過ぎれば巣立ちの準備

ア、十二歳になったら全てのことを一人でできるように準備をすること。

イ、中学生になる前にしっかりと準備をしておかないと、中学生生活が苦しくなってしまうため。（K 男）

B-16 十二過ぎればイン千変え

ア、十二になると体も大きくなり 24 から 26 に変わるという意味。

イ、最近自転車を買い換えたから。（W 女）

B-17 十二過ぎれば〇〇期

ア、十二になると、思春期などがきて大人になっていくという意味。

イ、最近少し反抗期がきているから。(同上)

B-18 十二さいまでチャリ歩道

ア、十二さいまでは自転車を歩道で安全に運転する。

イ、歩道を走れるのは12さいまでだとテレビでやっていたから。(K女)

B-19 十二は大人の一年生

ア、十二になると大人のように自分を持つようになることが多いという意味。

イ、小さいころは、親に言われたことを素直に聞いていたけれど、今は、何か言われると、何かしら反論したくなるので、これは自分の意見を持つようになったのだと思い、一歩大人に近づいたと思ったから。(K女)

B-20 十二過ぎれば十人十色

ア、大人に近付いていく程に人の考え方には種類が多くなるという意味。

イ、中学生になったら、自分の意見を主張する機会がふえるから。(M女)

B-21 十二過ぎての人生航路

ア、十二を過ぎてからは、人生についてしっかり考える歳である。

イ、先生の話聞いたから。(S男)

(裏面に「十二過ぎ目そらし話す心内」「十二では親のしっせき口答え」)

B-22 十二からは自立

ア、十二歳からは親などの大人から離れ、自立する時期なので、十二を過ぎてからは個々に自立をしてくという意味。

イ、自分は今十二歳なので、これからの決意も含め、自分を見つめていこうと中学生に向けて思ったから。(U男)

B-23 十二になれば大人の始まり

ア、十二は大人の始まりという意味

イ、十二さいはもうすぐ大人の始まりかなと思った。(F女)

B-24 十二になるころ思春期だ

ア、十二は思春期という意味。

イ、よく十二さいは思春期のころと姉がいていた。(同上)

B-25 十二のころから反抗期

ア、十二は反抗期という意味。

イ、私はだいたい十二さいぐらいから反抗期だから。(同上)

B-26 十二はみんな枝分かれ

ア、十二になると一人一人に個性が出て個人に分かれる。

イ、学校生活をしている中で一人一人に個性が出て個人に分かれていると実感したから。
(S男)

B-27 十二すぎても親の手の中

ア、中学生になっても、親がいないと生きていけないという意味。

イ、大人にとっては、中学でもまだ小さいんだなと思ったから。(M 男)

B-28 十二過ぎて親苦勞

ア、中学生になると反抗がよりひどくなるので、親はもっと苦勞するという意味。

イ、自分が実際に苦勞させているから。(T 男)

B-29 十二すぎても親にとっては子のまま

ア、十二さいをすぎても親にとっては子どものまま。

イ、親にこのようなことを言われたことがあるから。(H 男)

B-30 十二過ぎての一人でカラオケ

ア、十二歳を過ぎたら親といっしょにどこかに行くのではなく、一人で自由に行動することができなくてはいけない。

イ、ぼくの兄が中学生になってからそういう状態だったから。(N 男)

B-31 十二は反抗の年

ア、十二さいは反抗期がくる人がよくいる。でもそこからまた大人になっていく。

イ、周りに同い年の反抗期の人があるし、自分も反抗期といわれているから。(T 男)

B-32 十二さいは大人の道を歩んでいる

ア、大人の準備をしているという意味。

イ、十二さいは中学一年生という新たなスタートなのでこれをかきました。(N 女)

B-33 十二すぎてもいのこり

ア、十二さいになってもい残りという意味。

イ、授業中に終わらなくてい残りしているから。(W 男)

C-1 十二で親離れ

ア、十二才からは大人(親など)の手を借りずにできることが増えるから。

イ、最近、お母さんやお父さんの手を借りずにできることが増えてきたと感じたから。

(I 女)

C-2 十二さいは進学のとし

ア、十二さいは小学校から中学校になるという意味。

イ、進学してもがんばりたいと思って書いた。(H 男)

C-3 十二過ぎれば、人柄多様・多彩

ア、十二才を過ぎると、様々な人にふれ合う機会が多くなり、人柄が多様・多彩なものになるということ。

イ、十二才を過ぎると、小学生から中学生になり、自分より年上の人とふれ合うことになる。それによって、年上の人から色々なことを学んだり、他の人の人柄の多様性を知ったり、自分の人柄が多彩になっていくから。(W 女)

C-4 十二過ぎれば大人道

ア、十二を過ぎると、大人あつかいになり、それからどんどん大人になっていくという意味。

イ、自分達も十二なので、大人にどんどん近づいていくから。(T男)

C-5 十二過ぎれば大人の世界

ア、大人の口調になり、大人の世界の仲間入りになるという意味。

イ、十二を過ぎれば、電車などが大人料金になり、中学校になり大人の口調になるから。

(A女)

C-6 十二すぎればうそをつく

ア、十二をすぎるとかくしごとがふえたり、悪事がふえそうだから。

イ、十二さい以上は、もうほとんど大人だと思ってこれしか思いつかなかった。(S男)

C-7 十二すぎれば半分大人

ア、子供料金→大人料金になったりなど、決まりが大人になるから。

イ、十二さいをすぎるといろいろときびしくなるので、このことわざを作った。(Y女)

C-8 十二過ぎても人間は人間

ア、十二才でも五才でも百才でも変わらず人間。中学校に入っても高校に入っても変わらず人間。

イ、十二才でも五才でも変わらず人間。中学校に入っても高校に入っても変わらず人間だと思ったから。(A女)

C-9 十二過ぎれば大人に近づく

ア、そのまま、一歩ずつ大人に近づくから。

イ、十二歳からは一歩ずつ大人に近づく感じがしたから。(C女)

C-10 十二までは子供料金

ア、十二才(小六)までは子供料金だから今を楽しもうという意味。

イ、安い方が沢山の事ができるから。(Y女)

C-11 十二過ぎれば大人の一步

ア、中学生になると、大人と同じ料金になったりするから。

イ、中学生になると、大人と同じ料金になったりすると思ったから。(T女)

C-12 十二才はまだ中人

ア、十二以下は小人で二〇才は大人なので、十二才はまだ中人なのでこれからのびていくという意味。

イ、まだ私自身はまだかんぺきにせいちょうしていないようなので書いてみました。

(T女)

C-13 十二までは人の言う事。十二過ぎれば、自分の考え。

ア、十二までは、人の言う事を聞いて行動していたけれど、十二を過ぎれば、自分の考えで行動するという意味。

イ、意味と同じように十二歳までは大人の言う事などを聞いて行動する事が多かったけれど、十二歳を過ぎればまた一步大人に近づいて、自分の考えで行動する事が多くなると思ったので、このことわざを考えました。(T男)

C-14 十二過ぎれば大人料金

- ア、十二才を過ぎると中学生になるからどこに行っても大人料金になる。
- イ、ディズニーリゾートに行った時、中学になると値段が高くなると思ってこのことわざをつくりました。(H女)

C-15 十二のせんとく百までも

- ア、十二さいの時にせんとくした事(たとえばぶかつ)は百さいまでいく。(ぶかつがテニスで大人になってテニスせんしゅ)
- イ、せんとくはじゅうようだから。(T男)

C-16 十二過ぎればぜんにもあくにも

- ア、十二さいの時わるいことをすると大人になってもわるいことをする人が多いから。
- イ、見学に行った時万引きは一回したらやめられないというビデオを見て思った。(同上)

C-17 十二の一步

- ア、十二になると大人に進む一步という意味。
- イ、中学生になって一步ずつすすむから。(O女)

C-18 十二からは大切に

- ア、十二から中学に進む。そこで人との関わりを大切にするという意味。
- イ、まだ中学になっていないけど人との関わりで人生が変わると思って。(S男)

C-19 十二すぎればちゃらくなる。

- ア、十二才になればほかの学校とのかかわりで人生が変わる。
- イ、十二才になったらほかの学校とかかわりが強くなり、その人によってチャラくなったりするから。

C-20 まだ十二さい。もう十二さい。

- ア、まだ生まれてから十二さいしかたっていないと考えるのではなく、もう十二さいになってしまったのだから、これからは時間を大切にという意味
- イ、一年がだんだん短く感じてきたから。(T男)

C-21 十二過ぎれば味の革命

- ア、大きくなってくると、今までわからなかったものの味がだんだんわかるようになってくるから。
- イ、自分が大きくなってくると今までまずいと思っていたものが、おいしく感じるようになってきたから。(I男)

C-22 十二過ぎれば大人の意見

- ア、十二過ぎたら大人のような意見を言う。
- イ、お母さんみたいに意見をいろいろ言いたいなと思ったから。(M女)

C-23 十二さいのカツラ

- ア、人に自分のなやみを言えなくなっていく。
- イ、いじめの事件が多いから。いじめはやられているがわは、人にいえないひとがいる

から。(U男)

C-24 十二過ぎたら子は卒業

ア、十二を過ぎたらもう子どもではなく大人になっていくということ。

イ、十二を過ぎると子どもではなくなるから。

C-25 十二過ぎれば世間話

ア、十二歳を過ぎれば自然と大人のように世間話をするものだ。

イ、最近、学校の六年生がニュースや新聞の話をするから。(W男)

D 稲城市立平尾小学校 6年2組

D-1 十二の思い出話

ア、十二の思い出は、長く覚えていめから大人になっても忘れない。(K女)

D-2 十二歳は大人気分

ア、十二歳は、小学校を卒業するけれど、中学生になり、少し生活が変わり家で過ごす時間がなくなるから。(R女)

D-3 十二は南極

ア、十二歳になると性格がつめたくなることです。(N女)

D-4 十二いこうは反こう期

ア、親は心配して物を言うけど、本人はおせっかいだと思っている様子。(I男)

D-5 十二才は大人入り

ア、年は早くすぎていくという意味。(M女)

D-6 十二才は一生で大切なことを学ぶ

ア、大切なこととは、人間かんけい、れいぎなどを学ぶ。(Y男)

D-7 十二は短い時間

ア、小学校生活も一年から六年まであっというまということ。(K男)

D-8 十二は大人のなかまいり

ア、十二才は、でんしゃりょうきんやバスりょうきんがおとなだから。(T男)

D-9 十二才は人生の分かれ道

ア、十二才で人生に大切なことをたくさん学ぶので、それを生かすのか生かさないのかで未来が変わるから。(S男)

D-10 十二過ぎれば親もとはなれる

ア、十二才ぐらいになるといろんなことがはじまり、親といっしょにいる時間が短くなり大人になりはじめる。(M女)

D-11 十二才とは道のわかれ道

ア、十二才で中学に入るけど、さぼるかやるかのわかれ道。(K女)

D-12 十二はえとの一周

ア、十二才になるとえとが一周する。でも、産まれた時の事はおぼえていないから一周した感じがしない。小さいころの事をおぼえていない例え。小さいころの事をおぼ

えているといったヤツに言ってやれー（このことわざを）（A女）

D-13 **十二は十二**

ア、どんなことがあっても、十二才は十二才。（K男）

D-14 **十二は青春のはじまり**

ア、十二才くらいから毎日が楽しくなる。（K男）

D-15 **十二になっても忘れやすい**

ア、何才になっても忘れ物はする。（M女）

D-16 **十二では子どもが旅立つ うれし悲しき親心**

ア、十二才で子どもが学校卒業することは、うれしいのか悲しいのかよくわからないのが親心です。（R男）

D-17 **十二歳は王様気分**

ア、十二歳は、小学校の子供のなかで一番大きい歳だから、少し王様気分になった。（A女）

D-18 **十二は人と関わる年だ**

ア、十二才になれば中学生になることもあって違う小学校と一緒にあったり、中学校の先生とのかかわりも増えるから。（K女）

D-19 **十二はいっしゅん**

ア、十二才になったと思ったら、すぐにつぎの年になり、あっというまにすぎてしまう。
（Y女）

D-20 **十二歳の夢だけは大人**

ア、十二歳の夢は大人になるにつれての筋道。（S男）

D-21 **十二歳は新生活**

ア、十二歳から中学生になり、体も大きくなって、部活なども始まり生活が小学校とはすごく変化があるから。（H女）

D-22 **十二は水のあわ**

ア、せっかくゆうきをだしてこくった人が、ちがう中学校にいてしまうこと。（S男）

D-23 **十二は大人と子供の半分**

ア、十二才は、勉強など色々なことを学ぶこともあれば、子供のように遊ぶこともある。
（M女）

D-24 **十二過ぎれば大人料金**

ア、中学校になると、電車の料金が大人料金になるため、子供ではないが、大人でもない。（S男）

D-25 **十二歳は大人気分**

ア、十二才になると中学に行って自分の心は大人気分になる。（M女）

D-26 **十二は大人と子供の中間だ**

ア、十二才は、少し大人っぽくなって、子供みたいな部分、性格があるからその中間が

十二才という意味。十二才になると、ニュースなどみることも増えて少し大人になるけど、まだアニメも見ているから子供みたいな部分もある。(Y男)

D-27 十二すぎれば大人の始まり

ア、十二すぎると中学校に入学とか、お年玉がふえたり大人へのだい一步 (S男)

D-28 十二は仲間

ア、十二歳はいろいろな友達をつくること。(S男)

D-29 十二はいろんな夢がある

ア、十二才になると中学校へ入学するから、夢や知識がほうふになり、夢がたくさんできる。(U女)

D-30 十二は勉強のがんばりどころ

ア、十二才は、中学に入るため小学生のそうふくしゅうでいそがしいという意味。(S男)

D-31 十二歳 大人と子供の境目だ

ア、十二歳六年生は、体が大人へと変化していくということ。(T男)

D-32 十二は大人への第一歩

ア、十二歳で大人になるための道を一步進んだということ。(R女)

D-33 十二で大人の仲間入り

ア、十二才からは、もう子供じゃなくて大人のあつかいをされる。(N男)

D-34 十二は大人の仲間入り

ア、十二歳になったら、中学生になるし、料金も大人料金になるから。(S女)

D-35 十二は成長の年

ア、一年から六年の中で、十二才になったら声変わりや身長がすごくのびるとし。(H男)

D-36 十二は二けた三年目 中学一年目

ア、十二才は、二ケタの三年目で、年では上の方だが、中学校では、まだ入学したばかりの一年目。どんな上の人でもその人が下の方になることもある。(H女)

D-37 十二は終わりであり始まり

ア、十二才は小学校の終わりであり、中学校、これからの人生の始まりでもある。(K男)

D-38 十二歳は終わりでもあるが始まりでもある

ア、十二歳は六年生で卒業するけれど、4月から中学生になるから大人の第一歩でもある。
(M女)

参考文献

- 1、柳田国男『家閑談』(『柳田国男全集』第15巻収録)
- 2、同『故郷七十年』(同 第21巻収録)
- 3、実業之日本社版『日本の社会』復刻版(第一書房)
- 4、『人の一生一群馬の民俗 2-1』(みやま文庫、1988年)

5、『日本人の一生』（谷口貢、板橋春夫編著、八千代出版、2014年刊）